



(愛称は「ちがさき丸ごと博物館」)

ちがさき 春の花を探して

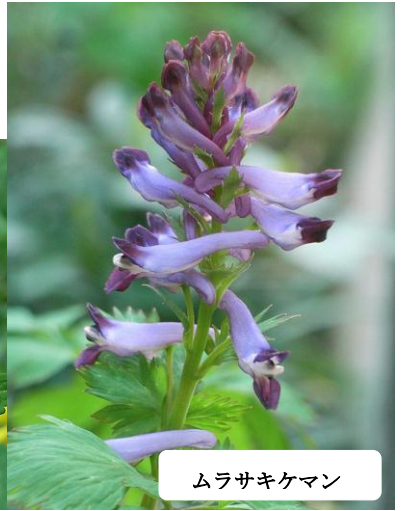
花が咲き乱れる春。
お花見を楽しまれる方々も多いのではないのでしょうか。
里山、海岸、まちかど・・・、
春から初夏にかけて見られる市内の植物にまつわる話を特集しました。



ノカンゾウ



クサノオウ



ムラサキケマン



タチツボスミレ



ケマルバスミレ



キジムシロ



カントウタンポポ



スミレ



ツボスミレ

春に咲く植物では、代表的なスミレ類、タンポポ、カンゾウ類、それにムラサキケマン、クサノオウなどがあります。県立茅ヶ崎里山公園では、これらがすべて見られます。清水谷（しみずやと）、行谷（なめがや）、駒寄川流域の道路、畦道、林縁などでも見られます。県立茅ヶ崎里山公園や、これらの近くを散歩される方は、写真の植物を発見できることでしょう。

(写真提供：すべて岩本和代氏)



「ナンジャモンジャ」の木

■ナンジャモンジャ

成就院に「ナンジャモンジャ」の木があります。毎年5月の連休頃に綿雪のような密集した美しい花を咲かせ、大変人気があります。

この木は元東京大学総長の茅誠司（かやせいじ）さんの赤羽根の居宅から平成15年に移植されたそうです。成就院の「ナンジャモンジャ」の正式名は「ヒトツバタゴ」と言い、モクセイ科の落葉高木で、絶滅危惧Ⅱ類（環境省）に指定されています。一方、かながわの名木100選に選ばれている海老名市有馬と大和市深見神社にある「なんじゃもんじゃの木」の正式名は「ハルニレ」、逗子神武寺にある「なんじゃもんじゃの木」は正式名「ホルトノキ」、横浜市小菅（こすげ）長光寺にある「なんじゃもんじゃの木」は正式名「クロガネモチ」です。昔、正体不明の木は「なんじゃもんじゃ」と名づけられたようです。

（写真提供：坂井源一氏）

■ハンカチノキ

同じく成就院に「ハンカチノキ」もあります。花は「ナンジャモンジャ」より少し早く4月中旬過ぎから末頃に咲き、2枚の白い大きな苞葉（ほうよう）が白いハンカチを下げたように見えます。中国原産のミズキ科の落葉高木で白い苞葉がよく目立つため、日本では「ハンカチの木」とか「幽霊の木」などと呼ばれています。また別名「ハトノキ」とも言います。

成就院のご住職が中国訪問時に見た珍しい木（ハンカチノキ）を日本で探して境内に植えたとのこと。昨年は暑かったせいか花の付きが悪かったそうです。今年はどうでしょうか。



ハンカチノキ

（成就院ホームページより）



茅ヶ崎駅南口のロータリーなどで見られる アメリカデイゴの花

江戸時代に渡来したという南国の花・アメリカデイゴ。茅ヶ崎駅南口のロータリー内や、ラチエン通りの開高健記念館から海岸の間で、鮮紅色の花を付けているところを見ることができます。左の写真は「太陽の郷」内のもので6月と10月に咲くとのこと。見学したい方は必ず受付で許可を得てください。

（写真提供：馬場芳春氏）

コラム

地中に眠る古代の春 花咲き乱れる古代の本村

本村（ほんそん）にある居村（いむら）B遺跡は、最近まで水田であり水気の強い低地でしたが、26年前から数回の発掘調査で奈良時代から平安時代の「木簡」（文字を書いた板）が出土して、注目されました。

「放生」のほか、「蕎」や「酒」「雑菜」などの文字が見られ、当時の産業や仏教行事や税などに関する茅ヶ崎市で最も古い文字資料です。小高い場所にある普通の遺跡では、動植物などの有機物は、空気に触れて腐ってしまいほとんどが消失してしまいます。しかし、居村B遺跡では、水田下の地下水に護られて土器類や木簡などの人工遺物とともに多くの木製品や当時の植物などが出土しました。桃と思われる種や、「市」や「車」などの文字のある土器片（墨書土器・ぼくしょどき）が出土したことから、このあたりに古代役所があり、にぎやかに「市」が開かれ荷車が行き交い、春ともなれば梅や桃の花が咲き乱れる小さな都の景観が偲ばれます。また周辺では黄色い菜の花も春の訪れを告げていたことでしょう。

サイクリングロード

の海浜植物

春から初夏にかけ、汐見台地下道を抜けた海岸からヘッドランドあたりまでのサイクリングロードを歩いてみると、ところどころに群生するハマヒルガオやコウボウムギが見られます。

ハマボウフウやハマエンドウやハマダイコンも見つけることができます。

また、サイクリングロードわきに連なる低木のなかには、華やかに咲いているシャリンバイも見ることができます。

浜降祭にゆかりの深いハマゴウは、夏に向けて薄紫色の花を咲かせ、その芳しい香りも特徴的です。

ハマボウフウは、昔は多く自生していて、地元の家庭の食卓にもものぼったと云われています（刺身のつまなど）。

（写真提供：すべて文化資料館）



ハマヒルガオ



コウボウムギ



ハマボウフウ



ハマエンドウ



ハマゴウ



ハマダイコン



市の花「つつじ」シンボルマーク

市の花：つつじ

市制施行25周年を記念して、市のシンボルとなる「市の花」を定めることになり、昭和47年4月22日、「制定審査委員会」が発足しました。候補の花としてつつじ、しゃくやく、あじさい、ばら、月見草、ひまわり、ゆり、えにしだ、タンポポ、カンナの10種が挙げられ、同年5月20日から6月10日にかけて全市民による投票が行われました。同年6月17日に第2回審査会を経て、最も得票数の多かった「つつじ」が市の花として制定されました。（昭和47年10月1日制定）

（市ホームページより転載）

トピックス

企画展『つながるちがさき』開催報告



まち歩き事業の様子
（南湖の左富士之碑にて）

平成24年11月22日（木）から平成25年1月27日（日）までの67日間、なにげなく暮らすわがまちを見直し、見慣れたまちの魅力を再発見するキャンペーン・企画展『つながるちがさき』が開催されました。

まち歩きやスタンプラリーなどの事業を通して、多くの市民の皆様から、「ふだんなら行かない場所に行き、新たな発見や各施設等での交流を図ることができた」「来年もやってほしい」といったご感想をいただきました。

「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館」では、今後も茅ヶ崎の歴史・文化・自然・人など、さまざまな都市資源を生かし、ふるさと茅ヶ崎を感じていただけるような機会をつくってまいります。

（略称：ちがさき丸ごと博物館の会）の活動

■ 4月の行事予定

・浄見寺地元まつり 「旧和田家周辺ガイド」

恒例の旧和田家周辺の史跡などを「丸ごと博物館の会」がガイドします。

実施日 4月20日（土）

受付 当日会場にて受付します。

ガイド時間（予定） 10：30、11：30、12：30、13：30



・「歴史と食のまんぷくツアー」 ～浄見寺編～

香川駅からのまち歩きガイドをします。

実施日 4月20日（土）10：00～11：30

コース 香川駅集合→七堂伽藍跡 → 伊右衛門農園 → 熊澤酒造 → 民俗資料館 → 浄見寺（予定）

定員 15名（応募者多数の場合は、抽選）

費用 500円（ガイド、資料、昼食代）

応募方法 **往復はがき**に参加者全員の住所・氏名・生年月日、代表者の電話番号を記入して、〒253-0041 茅ヶ崎 1-2-53 一般社団法人茅ヶ崎市観光協会 「ツアー係」まで
※応募はがきは1組1枚・1組2名まで。4月10日（水）まで消印有効

・サンセットウォーキング 茅ヶ崎市商業協同組合協働事業

4月10日（水）夕日が箱根に沈む素晴らしい景色を眺めながら、サザンビーチから柳島海岸までサイクリングロードをゆったり歩きます。今後、毎月開催を計画しています。

■ 行事報告

・まち歩き 高砂緑地から海へ 茅ヶ崎市社会教育課協働事業

1月12日（土）「南湖周辺の文化人を訪ねて」を実施しました。

好天に恵まれ、たくさんの文化人旧宅を訪ねて楽しいまち歩きでした。



・えぼし岩周遊船 乗船ガイド 茅ヶ崎市観光協会協働事業

2月2日（土）実施予定の「えぼし岩周遊船」の乗船ガイドは荒天のため中止となりました。

同時開催のわかめまつりは実施され、販売された「えぼしわかめ」は大好評ですぐに売り切れていました。

・ちがさき探訪 ガイド

3月8日（金）大和深見地区社会協議会の皆さん25名のガイドをしました。

旧相模川橋脚、文化資料館「写真とことばが伝える茅ヶ崎の関東大震災」などを見ていただきました。

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館って何？

茅ヶ崎市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、このまちらしさをもついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれがもっている意味や魅力を広く市民に周知する一方、それぞれを関連付けて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、本市を改めて知り、本市を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかげがえのない宝物として、地域により保護され育てられていくこととなります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。

編集後記

昨年の春の季刊誌は市内各地でみられるサクラを特集しました。サクラ以外の植物を特集しようと取材をはじめると、なにげなく咲く魅力的な植物がたくさん。サクラ以外の「お花見」も楽しいものです。